

5. DLA <聴く> 映像 (DVD) スクリプト

1 「えんそく」

皆さん、遠足って知っていますか。(遠足の絵を見せて) 遠足ですよ。

明日、遠足に行きます。(さくら山の絵を見せて) さくら山です。さくら山に行きます。(バスの絵を見せて) バスで行きますよ。みんなでさくら山に登りましょう。

2 「うんどうかい」

皆さん、明日は運動会です。(運動会の絵を見せて) 運動会ですよ。(徒競走・玉入れの絵を見せて) 走ります。80メートル走ります。(体育の服装の絵を見せて) 体育の服で学校へ来てください。(給食の絵を見せて) 明日は土曜日ですが、給食があります。(片手を勢いよく高く上げて) みんな、頑張りましょう。

3 「工場見学」

皆さん、これを見てください。(自動車工場の絵を見せて) これは、どこですか。ここで自動車を作ります。そうですね、自動車の工場ですね。来週、自動車の工場に見学に行きます。(持ち物の絵を見せて) 持ち物は、お弁当、水筒、それから、ノートと鉛筆です。工場の話をよく聞いてくださいね。

4 「えんそくのおしらせ」

はい。では、うしろまでプリントいきましたかね。はい。では、説明をします。えー、このお手紙は遠足のお知らせです。よく見てください。では、ちょっとみんなに質問してみようかな。遠足に行くのはいつですか。はい、あたりー。5月10日木曜日です。5月10日木曜日に遠足に行きます。では、次の質問。場所はどこですか。おー正解。はい。大山公園に行きます。大山公園には、大山がありますよね。そう、大山に登ります、登ります。はい。えー大山公園、大山、高さどれくらいか知っていますか。もっと、もっともっと。あー、600メートルね、あるんですね。そこの頂上からは晴れていれば海が見えまーす。先生もあそこの海とっても楽しみなので、みんなも晴れたら海が見えると思います。楽しみにして頑張って登りましょうね。

はい。続いて、出発は9時。みんなはいつも通り学校に登校します。ただし、ランドセルじゃありませんよ。リュックで来てくださいね。はい。持ち物はリュック。それから中にはお弁当、水筒、それから頂上でお弁当を食べるので、その敷くレジャーシートがあるといいと思いますね。それを持ってきてください。えー、お弁当、水筒、シート。それから帰りはだいたい3時くらいになります。3時くらいに帰ってきますので、このお手紙と一緒にうちのの人によくお伝えしてください。はい。それではこのお知らせのお話はこれでおしまいです。

5 「トマトのさいばい」

はい、みなさん。この写真を見てください。うん、そうです。トマト。ねー、真っ

赤ですね。トマト好きな人？ おー、いっぱいいる。苦手な人？ あー、これも結構いますね。はい。先生も小学生の時はトマト苦手でした。でも、すぐに好きになりましたね。みずみずしくて夏はおいしいなーって思って食べてました。

はい。それでは今日これからやることを説明します。これから外に行って、トマトの苗を植えます。そう、一人ひとつずつ。自分のトマトを育てましょう。

うん、楽しみだね。あ、そう。あの一、大きく育てて実がなったら、収穫してみんなで食べることもできますよ。はい。まず、外に出たら、先生が一人一人に鉢、植木鉢を渡します。そしたら、スコップで土を半分まで入れてください。

多すぎても少なすぎてもいけませんよ。半分まで土を入れてください。

そしたらそのあとで、トマトの苗をここに入れます。トマトの苗を真ん中に置いたら、またスコップで土を入れていきます。それでここまで、トマトの苗が隠れるここまで土を入れます。今日やることはここまでです。

でも、この先の話をちょっと説明します。花、そうトマトの花。ねえ、こんな色なんです。黄色。きれいですね。ここに実がなってますね。トマトの花です。

それからトマトが育ってきたら、棒をさします。ね、棒。何のために棒をさすのでしょうか。あ、そう、あたり。よく分かりましたね。そう。トマトはツルなので、こう横にね曲がって行っちゃう、倒れちゃうんですね。倒れないで、まっすぐ伸びてくださーいのために、棒を縦に立てます。それで、棒にツルをこう結んでおくんですね。そうすると、まっすぐ育っていきます。それから大事なこと。水ですね。はい。自分のトマトなので、自分で水をしっかりあげられるといいですね。はい。じょうろにくんで、水をこのようにあげていってください。

さあ、それではみんなで外に出て、実際にトマトの苗を植えてみましょう。

6 「ごみの ゆくえ」

はい、ではこの写真をみてください。何の写真ですかね？ おお、あ、みんな、そうね、さすがですね。はい、ごみ収集車がごみを集めてるところですね。はい。え、では、この写真を見て何か気づくところ、ありますか。ふん、ああ、ヘルメットね。はい、作業の人がヘルメットをかぶっていますね。はい、それから？ ああ、長袖、長ズボン。ね、何で、何でヘルメットかぶって、長袖、長ズボンなんですか。うん、ああ、危険なんだ。危険な仕事、へえ、なるほどね。どんなふうに危険なんだろうね。うん、ああ、何、ビンが割れたりするの？ ああ、危ないんだ。ははあ。じゃ、ビンがこん中に入ってるの？ えっ、入ってない？ はっ、ふうん、じゃ、このごみは…紙屑。じゃ、じゃ危なくないじゃん。あ、でも危ないんだ。なるほどね。さあ、実際どうなんですか。

では、今日はこのごみの行方という勉強をしたいと思います。え、では、まずみんな、ええと、おうちで、1週間ごみ調べの勉強をしてきましたね。調べたごみについてちょっと話してもらいたいなって思います。はい。おうちではどんなごみが出ましたか。はい、あ、紙くず。ね、紙屑さつき出ましたね。はい、紙屑。それから？ うん、あ、生ごみ。それから？ 生ごみね。生ごみ、出ますね。生ごみね、それから？ うん、新聞、ちらし、いっぱい出ますね。古新聞、それから？ あ、ペットボトル、

です。先生のうちもね、ペットボトルいっぱい出ます。はい、ペットボトル。ね、いろんなごみが出ますね。

はい、じゃ、このごみ、どこに持ってくるの？ うん、ごみ収集車に積んで…え、海に捨てに行くの？ ううん、あっ、違う。ううん、あっ、燃やす。燃やすのね。全部燃やすんだ、これ、全部、バアーっと。全部どっか持って行って燃やすんだ。うん、あっ、はあ、ペットボトルは燃やさない。古新聞も燃やさない。あ、じゃ、この2つは燃やす（古新聞・生ごみを指して）。こっちは燃やさない。なるほどね。はい、さあ、実際どうなんでしょうか。

じゃ、次の質問。これ、ごみ、どこに持っていくんでしょう。うん、どこ？

では、このごみ、ね、このごみ収集車に乗ってどこに行くんでしょう？ どこ？ は、はあ、はあ、大体あたりですね。ええ、こう言います。ごみ処理センター。はい、これらのごみは、ごみ処理センターに持っていきます。はい。では、今日はこのごみは、ごみ処理センターに運ばれて、それでどうなるのかということをお勉強したいと思います。

7 「エネルギー」

はい、それでは、このグラフを見てください。これは、今から35年以上前。先生がもう小さい時ですね。1975年の日本の電力を作る時のエネルギー源の割合のグラフです。さあ、何か気付いたことがありますか。うん。はい。石油、62.1%。ね。石油を使って電気をほとんど作っていたんですね。それから、水力、原子力、天然ガス、石炭というふうが続いていました。はい。ところが、こんなに石油に頼っていたののかなあ、っていう話になりました。なぜなら、オイルショックというのがあったんですね。それで、この62.1%を占めている石油がもし日本に来なくなったら、大変なことになる。ということになりまして、この後、日本はこの割合を変化させていきます。どのようになったか。

今から5年、6年前、2006年はこのようになりました。はい。さあ、何か気付いたことある人？ うん、そうだね。石油が7.8%。減りましたね。それから水力、石炭、天然ガスを使って、一番多いのは？ そう原子力です。30.5%。ただし、ね、みなさんもご存知のように、あの東日本大震災で、原子力発電所が事故に遭ってしまいました。もう原子力は使えないかもしれない。さあそうなったら、この30.5%、どうなっちゃうんでしょう。ですので、今、電気を使わないように省エネだよっていう話が盛んに言われております。

さあ、今後日本は、この原子力で電気を起こせないとしたら、どうしたらいいんだろうか。それを考えていくのが、このエネルギーの勉強です。ね。どうしたらいいと思う？ うーん、どうしよう。ま、ヒントをちょっと差し上げます。これを見てください。

これは、日本と同じ、島国。ね、アイスランドのエネルギー源の割合です。同じく2006年。はい、気付いたこと。うん、そうだね。地熱・太陽・風力、60.7%。かなりを占めています。それから。石油、水力、石炭などを使って電気を作っている。ということですね。

さあ、それでは今後日本はどのようにエネルギーを使っていったらいいんだろうか。
さあ、それをこれから勉強していききたいと思います。

8 「^{じしん}地震」

皆さん、ええ、今日から新しい勉強が始まります。テーマは地震です。

日本は地震が多い国なんです。昔から、あちこちで大きな地震が起きています。そうそう、昨日の夜も強い地震がありましたよね。先生の家では、本棚の本が落ちてきました。皆さんの家ではどうでしたか。夕べの地震がどのぐらいだったか、ニュースで聞いた人、いますか。はい、そうですね、この辺は震度4って言ってましたね。

ところで、地震のニュースではよく震度とか、マグニチュードって言葉を聴きますね。どんな意味だかわかる人いますか。ふうん、震度は、どのぐらい揺れたか、地震の揺れの大きさ…その通り。震度は、地震の揺れの大きさを表しているんですね。じゃあ、マグニチュードは？ ううん、これはちょっと難しいかな。マグニチュードは、地震のエネルギーの大きさを表しているんです。

地震の強さを表すのに、二つの言葉が使われているんですね。今日は、このうちの、震度について勉強します。震度は、今言ったように、地震の揺れの大きさを表しているんですね。震度は、震度計という機械で測ります（**震度計**）。夕べの震度は4でしたが、この震度って、いったいいくつに分かれているか、知ってますか。えっ、20？ いや、そんなに多くはないなあ。ええ、教科書の32ページを開けてください。そこにある震度表を見てください。（**震度表**）震度0から始まって、震度1、2、3、4とだんだん強くなっていきます。震度5と震度6は、それぞれ弱い、強いのもつあります。震度5の弱い地震、震度5の強い地震というように。そして、最後は震度7。全部で10に分かれていますね。ええと、例えばですね、震度1は、「建物の中にいる人の一部が、揺れを感じる。」って書いてありますね。夕べの地震は震度4でしたね。震度4は、「眠っている人のほとんどが目覚ますような地震。」って書いてあります。ええ、結構強い地震だったことがわかりますね。

さあ、その次に進みます。ええ、地震は地球の内部で起こります。地震が起こると、揺れが地面の中を伝わっていきますね。次に、それがどう伝わっていくのか、地震の揺れの伝わり方を見てみましょう。ええ、これは地震計といいます。地震の揺れを記録する道具です（**地震計**の写真）。この地震計の記録を見てください（地震計の記録を指して）。これを見て、何か気がついたことはありませんか。うん、どうですか。そうですね、ほら、最初は揺れが弱いですね。でも、後から大きな揺れがきていますね。そうなんですね。地震は、最初に弱い揺れがやって来て、その後に強い、大きな揺れがやってくる。これが地震の揺れの特徴なんです。

さあ、それが書いてあるところを読んでみましょう。34ページを開けてください。